

YRS
ユアーズ

横浜ラポール
Support

横浜ラポール聴覚障害者情報提供施設だより

横浜ウェーブ



第206号



新年のご挨拶



新年あけましておめでとうございます。昨年中も聴覚障害者情報提供施設事業の実施にご協力いただき、心より感謝申し上げます。

派遣事業については、病院受診等への派遣依頼に加え、イベント関係の申込が急増、派遣窓口は通訳者の調整で連日大忙しでした。相談事業については、諸々の制限が緩和されたことで訪問等の活動がし易くなり、担当職員もフル稼働しました。ラポール全館を会場に開催した「ラポールの日2023」も、参加制限を解除し1,000人を超すお客様が来場されました。横浜市聴覚障害者協会、横浜市手話通訳者協会のご協力で「ミニ手話教室」等をおこなった情報提供施設のブースにも多くのご家族連れ等がお立ち寄りくださり、終日笑顔であふれました。また、下段で報告しています通り、全国障害者スポーツ大会「燃ゆる感動かごしま大会」が無事開催され、横浜選手団は多くのメダルを獲得しました。スポーツ関係では、「デフリンピック東京大会2025」まで残り1年となり、関係するイベントも増えそうです。

今年も引き続き、利用者、通訳者、職員の安全を第一とし、安心してサービスをご利用いただけるよう努めてまいります。情報提供事業に関しお気づきのことがありましたら、いつでも遠慮なくお知らせください。平和で明るい一年となりますよう、今年もどうぞよろしくお願いいたします。

トピックス

【参加報告】 特別全国障害者スポーツ大会

10月28日(土)～30日(月)の3日間、特別全国障害者スポーツ大会「燃ゆる感動かごしま大会」が、県内の各地で開催されました。横浜市は横浜市中途失聴・難聴者協会会長の須山優江氏が選手団団長を務め、選手56人、役員37人の総勢93人が横浜市選手団として派遣されました。うち聴覚障害の選手は陸上2人、フライングディスク3人、卓球1人でした。当施設の職員1人と非常勤手話通訳者2人、要約筆記者1人が同行し、コミュニケーション支援等を行ないました。

横浜市選手団の競技成績は、金メダル42個、銀メダル19個、銅メダル9個の計70個のメダル獲得という好成績でした。聴覚障害の選手も、現地のスタッフやボランティアのサポートを受けながら各競技に参加し、日頃の練習の成果を十分に発揮することができました。来年は佐賀県で開催されます。選手の皆さんが次の目標に向かって活躍されることを期待しています。



(横浜市選手団結団式)



(競技場での一コマ)



(解団式での通訳の様子)

職員を
募集します

横浜ラポール聴覚障害者情報提供施設 職員（正職員）募集中

詳細は社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団のホームページ
トップページの新着情報から、職員採用の受験案内をご確認ください。

<http://www.yokohama-rf.jp/recruit/index.html>

事業報告

横浜市手話通訳者全体研修を行いました

10月14日(土)に、臨床心理士、公認心理師、精神保健福祉士である甲斐更紗氏を講師にお迎えしオンラインで第3回全体研修が行われ、80人が参加しました。「聴覚障害者のメンタルヘルスと通訳者にのぞむこと」テーマに、臨床心理士の倫理要項や守秘義務の話しから始まり、聴覚障害者のメンタルヘルスについて現場の経験、最後に通訳者自身のセルフケアについてもお話いただきました。

受講者より「聴覚障害者の生い立ちや環境などがメンタルヘルスに大きな影響を与えていることを通訳者として理解しなくてはいけないと感じた」、「セルフケアのポイントとして、援助者として適切な距離を持ちながら客観的にみることが必要とわかった」など、感想をいただきました。

ろう当事者の臨床心理士のパイオニアとしての観点から聞くことはなかなかないので貴重な時間になったかと思えます。今後の活動にプラスになることを期待しています。

要約筆記者現任研修「会議模擬通訳」を行いました

11月の現任研修は手書き、パソコンともに会議場面を模した研修を行いました。会議場面で大切なことは、利用者が議事の進行に応じて意見を考え、発言できること、採決に遅れず参加できることです。手書き研修ではイヤホンで遮音した難聴者役と筆記者役、見学者とそれぞれ順に体験しながら模擬を行いました。パソコンは横浜市中途失聴難聴者協会から2名の方にご協力いただき研修を行いました。

会議資料と要約筆記画面の両方に視線を移動させながら参加する難聴者にとって、わかりやすい要約筆記とは何か、資料の活用方法、表記の正確さ、会議参加者への働きかけなど、派遣現場に活かせる気づきの多い研修となりました。

手話通訳者課題別研修「医療場面・事例検討」を行いました

11月11日(土)、横浜ラポールシアターにて、上記内容で研修を行い、午前・午後で92人の参加がありました。グループに分かれ、2つの事例検討を行いました。1つ目は、病院での「よくある場面」として待合せから通訳終了までの中で起こりそうな場面について話し合いました。「対象者の視界に入る所で待機する」「検査項目によっては手話表現が答えを誘導することになってしまい、検査の目的が果たせないこともあるため、どう通訳者として通訳をしていくか」など多くの意見が出されました。2つ目は「告知場面」について討議しました。対象者の思いを受容していくことの大切さや、医師や対象者の



意向に沿った通訳をする際の留意点などが話し合われました。特に「余命宣告に『死』という手話を使うのか」が多くのグループで話し合われていたのが印象的でした。今回のグループ分けは、通訳経験が様々な人で構成したため、それぞれに多くの気づきがあった研修でした。

「聞こえと補聴器」の講座に講師を派遣しました

11月28日(火)、講座「聞こえと補聴器」(主催:横浜市障害者社会参加推進センター、横浜市中途失聴・難聴者協会、横浜市健康福祉局)にて、聴覚障害者の福祉制度や聞こえの相談事業など当施設の役割についてお話ししました。約30人の参加がありました。

要約筆記者の派遣は、病院の受診や趣味関係、お子さんの学校行事など生活のあらゆる場面で幅広く利用ができること、また聞こえの相談についての情報提供を行いました。質疑応答では、要約筆記の利用方法についての質問もあり、より多くの方に利用していただくと幸いです。

参加報告

聴覚障害者映像制作担当職員研修会に参加しました

10月17日(火)～18日(水)に令和5年度聴覚障害者映像制作担当職員研修会(主催:特定非営利活動法人全国聴覚障害者情報提供施設協議会)が、和歌山県聴覚障害者情報センターを会場に、集合とオンライン(Zoom 利用)のハイブリット形式で開催されました。全国の情報提供施設職員等 41 人が参加し、当施設から 1 人がオンライン参加しました。初日は「視聴覚障害者放送の取り組みについて」(講師:総務省情報流通行政局地上放送課長補佐)の講義、研修委員長から機器整備事業等についての説明と研修会場の和歌山県聴覚障害者情報センターの「制作取り組み」についての報告、そして、聴覚障害者向け映像制作の先駆的施設である熊本県聴覚障害者情報提供センターによる「聴覚障害者向けの番組制作の歴史と今後について」の講義がありました。2日目は、4つのグループにわかれ、映像制作にかかわる課題をテーマに話し合い情報の共有を行いました。

研修当日、総務省担当者から平成30年2月に策定された、字幕放送、解説放送及び手話放送の令和9年度までの普及目標を定めた「放送分野における情報アクセシビリティに関する方針」が見直され、改定となったとの発表があり、字幕放送は目標の80%以上に到達したとのことでした。また、厚労省への補助金増額申請が可能な内容に映像制作に関する機器更新、制作にかかる費用を管理費増額として申請可能であることも全施設で共有しました。

この研修は、国の動きと国への働きかけなどを知るとともに、聴覚障害者情報提供施設の職員で培ってきた聞こえない人にとっての映像の大切さ、映像による影響力などを改めて考えさせられる貴重な機会となりました。当施設での映像制作業務につなげていきます。



(全聴情から提供いただいた、集合の様子写真)

第36回全国ろうあ者相談員研修会に参加しました



11月17日(金)～18日(土)の2日間、「第36回全国ろうあ者相談員研修会・第27回全国職業安定所手話協力員等研修会兼ろうあ者労働問題フォーラム」が栃木県宇都宮市にて開催され、全国から87人の参加がありました。

初日は、(一財)全日本ろうあ連盟の福祉・労働対策委員会から基調報告があり、手話言語法制定に向けての活動や、法定雇用率の達成状況について報告がありました。続いて、東京手話通訳等派遣センターのセンター長・森せい子氏から「就労・相談支援のチーム構築について」講演がありました。その後、講演内容を受けて就労支援場面の事例検討を行いました。

2日目は、4つの分科会に分かれてレポート報告と討議が行われました。全国の相談員と意見を交わし、情報を共有することができ、今後の相談業務を行うにあたり、有意義な研修となりました。

第3回関東ろうあ者相談員連絡会に参加しました

11月22日(金)、埼玉県さいたま市にて、標記の研修会が開催され、14人の参加があり、当施設から相談員3人が参加しました。

日本社会事業大学大学院教授 木戸宜子氏を講師に迎え、「相談支援にかかわるスーパービジョンの考え方とピアグループスーパービジョンの運営」のテーマで研修を行いました。研修の内容は、相談に対応する上で大変参考になりました。今後の相談業務に生かしていきたいと思えます。

情報交換では、全国ろうあ者相談員連絡会ブロック代表者会議の報告がなされました。

聴覚障害者のための健康学習会を実施しました

今年度第2回の健康学習会を11月17日(金)にラポール上大岡にて、12月4日(月)に横浜ラポール(新横浜)にてそれぞれ開催し、合計20人の参加がありました。

今回は、「腸の健康」というテーマで、栄養士から腸の役割や腸が健康になる食事などについての話がありました。スポーツ指導員からは「腸活」おすすめ運動メニューの指導がありました。

来年度の開催が決まりましたら、紙面やらばらいん等でお知らせします。

普及・啓発 出前講座の実施報告

10月30日(月) 金沢区釜利谷地区民生委員児童協議会 釜利谷地区センター 参加者23人

11月 1日(水) ふれあいサークルかめ 新杉田地区ケアプラザ 多目的ホール 参加者42人

11月 7日(火) 西区聴覚障害者協会と西区の手話サークルが担う入門手話講座 参加者12人

11月14日(火) 青葉区恩田地区社会福祉協議会 若草台地区センター 参加者13人

出た!データ!

(11月末までの累計)

■通訳者の派遣・紹介人数

■聴覚障害者の相談

内容	手話通訳	要約筆記	合計	昨年同月	相談事業	実件数	対応数
医療・保健	3,815	50	3,865	3,714	医療	82	175
司法	26	2	28	30	職業	32	57
教育・保育	583	4	587	511	教育	1	1
労働・雇用	373	68	441	417	住宅	32	87
社会生活	767	30	797	745	生活	214	413
自己啓発	140	77	217	163	福祉	148	266
福祉推進	728	675	1,403	1,551	法律	17	25
介護保険	1,426	0	1,426	1,302	聞こえ	56	59
他都市	49	8	57	28	合計	582	1,083
合計	7,907	914	8,821	8,461	昨年同月	697	1,112
昨年同月	7,586	881	8461				

■通訳者の現任研修

■映像・字幕制作

手話	回数	23	参加人数	629	自主制作作品数	46
要約筆記	回数	21	参加人数	369		

情提の動き



11月

- | | | |
|-----------------------------|-----------------------------------|--------------------|
| 1 出前講座
(ふれあいサークルかめ・磯子区) | 20 手話2年次研修(オンライン) | 6 情提協議会会議(オンライン) |
| 6 横聴協との合同会議 | 20 災害救援本部会議 | 12 機器点検 |
| 7 若年層啓発講演(西区) | 21 手話ブラッシュアップ研修 | 13 要約筆記者現任研修 |
| 8 要約筆記者現任研修 | 25 秋のヨコアrikunまつり
ブース出展(横浜アリーナ) | 14 職員研修(障害特性別) |
| 11 課題別研修(医療) | 26 手話通訳養成Ⅲ実習(横聴協) | 19 出前講座(上笹下地区民児協) |
| 12 手話通訳養成Ⅲ実習(横聴協) | 26 手話通訳養成講座閉講式 | 20 出前講座(六浦東地区民児協) |
| 14 電気点検日 | 28 講座「聞こえと補聴器」講師対応 | 21 難聴児支援体制協議会 |
| 14 出前講座(恩田地区民児協) | | 20~21 情提協議会理事会・委員会 |
| 17~18 全国ろうあ者相談員研修会
(栃木県) | | 22 浜難聴との会議 |
| 19 手話通訳養成Ⅲ実習(横聴協) | | 27 事業団研究発表会 |
| | | 28~1/4 ラポール休館 |
| | | 29~1/3 情提休業 |

12月

- 4 健康学習会
5 手話ブラッシュアップ研修

横浜ラポール聴覚障害者情報提供施設だより<<横浜ウェブ>>

発行日:令和5年12月31日

発行者:(社福)横浜市リハビリテーション事業団 横浜ラポール聴覚障害者情報提供施設

〒222-0035 横浜市港北区鳥山町1752 TEL.045-475-2057 FAX.045-475-2059

ホームページ <http://www.yokohama-rf.jp/rapport/jyoutei/>